

デカ記録されているが、その中の何種かが園内に植えられていたのだろう。

モミジは庭園に欠かせない植栽樹で、県内にも大きな庭園には必ず植えられている。四季折々の変化にはっきりと表現し、又、童謡にも歌われているように人の心を癒してくれるような植物である。「春はサクラ」、「秋はモミジ」と日本を代表する植物の一つでもある。

モミジ園は先生の長年の労作だったのかも知れません。奥様と一緒に樹木の変化を観察されるのが楽しみだったのではと。そんなご夫婦の光景が目に見えてきます。そのような時も、先生には至福のひとつきだった事と思われま

す。機会があれば再び、尾崎モミジ園を訪ねて見たいと思っています。

'94年に先生ご夫妻が南米の南端バタゴニア地方にご旅行された折、パイン国立公園で撮られた宿根カルセオラリアの写真を頂きましたが、この種の野生群落は初めてで感激しました。園芸植物の仕事に関係している小生に気配りされての事と思っています。

先生は、いつも我々若年層へのご指導やご配慮の念が大きく、深く感謝申し上げねばならないと思っています。そのお人柄が偲ばれます。

ありがとうございました。 合掌 2005. 7. 20

尾崎先生ありがとうございました

荻野美代

今、尾崎先生を思い出すのは大きなリュックを背負ってニコニコした姿です。あんな力があのスリムな体のどこにあるのか不思議なくらいです。

初めて採集会に行った水無溪谷の帰りは、例のごとく遅くなり、当時入っていた大学の寮は11時の門限でした。で、それには間に合いません。そのとき初対面であった私を先生がお宅へ連れて行ってくれ、お風呂に入れ泊めてくださいました。西大畑のお宅です。あの当時は無知で、泊めていただくのも当たり前くらいに思い、ろくなご挨拶もできませんでした。

次にご恩を受けたのは、教育実習の時でした。あの頃は教育学部で実習校を決めてくれて、私は中央高校で、しかも、指導教官は尾崎先生でした。今も時々同級生にかまわれますが、惨憺たる実習生の私に単位をくださいました。今教員をしていただけるのも先生のお陰です。

最後にお目に懸かったのは、じねんじょの観察会の海谷

溪谷だったかと思います。ステッキの効用をいくつか説明していただきました。① 高い枝を引き寄せる。② カメラの三脚代わりにする。③ もちろん、体を支える。④ 手が届かない人に手助けする。

いつも穏やかな笑顔で、どんな質問にも快く答えてくださったあの笑顔がもう見られないと思うと、本当に残念です。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

尾崎先生の思いで

川端義一

尾崎先生にはじめてお会いしたのは、津南町の植物調査の折りです。当時、牧野先生のご尽力で津南町の植物調査が始まり、じねんじょ会員による調査もたびたび行われていました。その調査の一員としてお会いし、その後何度も調査に同行させていただきました。その調査結果はなかなか印刷されませんでした。先生はそのことをとても気にしておられたご様子でした。私のもとへもお見えになり、植生図の写真を撮られたり、いろいろ話をしていきました。その後、印刷に向けて大変お骨折りをいただき、なんとか印刷にこぎつけました。

先生は企画力や組織力に優れた方でこの他にも様々な調査をまとめられました。カエデの先生として有名ですが、湖沼に関する造詣も深く、多くの調査を手がけられました。その中で、佐瀨、鳥屋野瀨の調査の際には調査員に加えていただき、湖沼調査の方法をいろいろ教えていただきました。船上からの調査も経験させていただきました。

先生は何につけ創意、工夫をされ、調査法や道具に尾崎流の改造がなされていました。その後私が、先生が勤務されておられた中央高校へ勤めることになって、このような工夫や改造が様々な面に及んでいることを知りました。部屋や道具、器具のいろいろなところに尾崎先生が手を入れた跡が残っていたのです。このようなことをするのは尾崎先生しかいないと一目でわかるような仕事がされていました。決してプロの仕事ではないけれども使う立場で考えられた手の入れ方が、何とも尾崎先生らしいと感心させられるようなものばかりでした。

何度も調査や採集にご一緒させていただきましたが、いつも変わらぬ先生の気遣いがあの笑顔と共に思い出されます。

お亡くなりになった年も年賀状をいただき、前年の10月にドイツ、オーストリアに行かれた旨が記されており、お元気そうで安心していました。ところが、入院されていることと病状を総会で聞かされ、翌日病院へお見舞いに伺いました。声も出ない状態でしたが、非常に喜んで下さり、また採集に行きましょうと話すと、手をにぎって答えて下